

令和 7 年 11 月 7 日

【照会先】

健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課
エイズ対策推進室長 小谷聡司(内線2373)
感染症情報管理室長 大塚和子(内線2389)
(代表電話) 03(5253)1111

報道関係者 各位

世界エイズデーに向けた普及啓発イベントを実施します

(開催20年目の記念イベント)

厚生労働省は、12 月 1 日の世界エイズデーに向け、公益財団法人エイズ予防財団やエイズ関連 NGO 等の関係団体の協力を得て、普及啓発イベントを実施します。

また、各都道府県、保健所設置市及び特別区においては、関係機関等と連携し、エイズに関する最新の正しい知識の啓発活動を展開します。

記

1 テーマ

世界エイズデーイベント レッドリボンライブ 2025
～ HIV とエイズ 愛と絆の 20 年 ～

2 イベント概要 ※詳細は別添のとおり

アーティスト、タレントによるトーク&ライブ

日時：令和 7 年 12 月 1 日(月) 19:00～21:00 (予定)

会場：神田スクエアホール（東京都千代田区神田錦町 2 丁目 2 番地 1）

受付：17:30～ 会場入口「マスコミ受付」実施(当日の入場は先着順)

18:00～ 詳細な取材条件の説明

3 世界エイズデーとは

世界保健機関（WHO）は、1988 年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12 月 1 日を“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱しました。我が国としても、その趣旨に賛同し、毎年 12 月 1 日を中心にエイズに関する最新の正しい知識等についての啓発活動を推進しており、全国各地で様々な「世界エイズデー」イベント等が実施されています。

4 取材方法

別添 2「取材申込書」にて 11 月 21 日（金）正午までに申込のこと

※事前申込がないと、当日の取材はお受け出来ません

※報道上の留意点は、個別に確認させていただきます

【問い合わせ先】

厚生労働省 感染症対策課 エイズ対策推進室

直通電話：03(3595)2257

Email：kansensho-koho@mhlw.go.jp

別添

世界エイズデーイベント レッドリボンライブ 2025
～ HIVとエイズ 愛と絆の20年 ～

日 時 : 令和7(2025)年12月1日(月) 19:00～21:00(予定)
場 所 : 神田スクエアホール (東京都千代田区神田錦町2丁目2番地1)
出 演 者 : 押尾コータロー、北村まあさ、純烈、白阪琢磨(HIV/AIDS先端医療開発センター特別顧問、医師)、田中あいみ、
TERU(GLAY)、INORAN(LUNA SEA)、TOSHI NAGAI、村山☆潤
レモンさん(山本シュウ) 他(敬称略)

※告知サイト(<https://redribbonlive.net/>)にて出演者情報を随時更新予定

実 施 内 容 : 一般観客を無料招待。ラジオDJレモンさん(山本シュウ)の呼び掛けに賛同したアーティストやタレントによるトークとライブにより、幅広い世代の人々に予防啓発のメッセージを発信。本イベントも今年で20年目を迎えます。HIVとエイズを取り巻く20年を振り返りながら、最新の情報もお届けします。

プログラム : (1) タレント、医師によるHIVとエイズに関するトーク
(2) アーティストによるライブ
(3) ニコニコ生放送、Youtubeライブによりオンラインでも配信(予定)
※後日、一部動画をアーカイブ配信(予定)

参 加 費 : 無料(抽選により320名様を招待)

参加方法 : 募集期間 11月8日(土) 10時00分～11月20日(木) 23時59分

告知サイト : 「レッドリボンライブ 2025」公式サイト

<https://redribbonlive.net/>

総合プロデュース・司会 : レモンさん(山本シュウ)

主 催 : 厚生労働省(事業委託先: 株式会社TBSラジオ)



「世界エイズデーイベント」取材申込書 申込〆切 11/21(金)正午まで

感染症対策課 (kansensho-koho@mhlw.go.jp) 宛てにお送りください。

社 名	
媒体名	
部署名	
氏 名	(合計 名)
連絡先	電話 : Email :
カメラ	あり (スチール ・ ムービー) ・ なし ※該当するものを○で囲んでください
通信欄	ご要望等がございましたら、ご記入ください

〔注意事項〕

- ・ 当日の入場は先着順です。ご了承ください。
- ・ 駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
- ・ 取材上の留意事項やカメラ取材の位置等については当日、スタッフがご案内いたします。

※お申し込み後、イベント企画制作（TBSラジオ）より確認連絡を入れさせていただきます

【取材申込書送付先、問い合わせ先】

感染症対策課 広報担当

直通電話 : 03(3595)2257

Email : kansensho-koho@mhlw.go.jp

令和7年度「世界エイズデー」実施要綱

1 名 称

令和7年度「世界エイズデー」

2 趣 旨

WHO（世界保健機関）は、1988年に世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日を“W o r l d A I D S D a y”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱した。

1996年から、WHOに代わって、国連のエイズ対策の総合調整を行うこととなったUNAIDS（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しているところである。

我が国においてもUNAIDSが提唱する“W o r l d A I D S D a y”に賛同し、その趣旨を踏まえ、12月1日を中心にエイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図る。

また、性感染症のり患と、HIVとエイズとの関係が緊密であること等を鑑み、近年感染者数が増加している梅毒や、国内で散発的な患者の発生が報告されているエムポックスについても、検査の実施や普及啓発の推進を図ることとする。

3 主 題（キャンペーンテーマ）

「U＝U 検出されない＝性感染しない」

趣旨等については、別紙「令和7年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて」を参照のこと。

4 期 日

令和7年12月1日

ただし、地域の実情等に応じ、12月1日を中心とした前後の日でも差し支えないものとする。

5 主 唱

厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団

6 実施方法

(1) 厚生労働省・公益財団法人エイズ予防財団

関係行政機関、エイズ関連NGO（非政府組織）等の関係団体、民間企業、報道機関等の協力を得て、全国的な啓発活動の推進を図る。主として12月1日を中心に啓発事業を行うほか、年間を通じた普及啓発のためのキャンペーンを実施する。

(2) 都道府県、保健所を設置する市及び特別区

関係機関、関係団体等との連携を密にし、それぞれの地域の実情に応じた広報計画、実施計画等に基づき、次の事項も参考にしながらHIVとエイズに関する正しい知識の啓発活動を展開する。

また、梅毒やエムポックスなど関心度の高い感染症情報とも合わせて、特に梅毒は街頭での呼びかけや感染リスクの高い性産業従事者等への啓発活動等積極的な広報に努める。

なお、都道府県から警察に依頼があった場合、広報のために性風俗店営業者の事業者情報の提供や保健所職員等が個別の事業者を訪問する場合にトラブル防止の必要が認められればその活動の後方支援などを協力していただけるため、適宜相談していただくこと。

- ① 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画等の協力を得た広報活動の実施
- ② ポスター、パンフレット、リーフレット、ビデオ等の作成・配布等による啓発活動の実施
- ③ 研修会、講習会、講演会、シンポジウム、街頭キャンペーン等の実施
- ④ 学校、企業、地区組織等に対する呼びかけ及び協力
- ⑤ 一般住民のみならず、相談窓口職員、医療従事者、教育関係者等への啓発

7 普及啓発における留意点

(1) 普及啓発の基本的考え方

後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（平成 30 年厚生労働省告示第 9 号）の趣旨を踏まえ、我が国に在住するすべての人々に対して、正しい知識の普及啓発の強化を図ること。普及啓発に当たっては、近年の発生動向を踏まえ、対象者の実情に応じて正確な情報と知識を分かりやすい内容と効果的な媒体により提供すること。

(2) 人権の尊重

患者・感染者が尊厳をもって暮らせる社会づくりのためには、患者・感染者のみならず、その周囲の人々の H I V とエイズに関する理解が必要であり、就学・就労を始めとする社会参加を促進することが、患者等の個人の人権尊重及び福利の向上だけでなく、社会全体の H I V とエイズに関する偏見や差別の発生を未然に防止することになること。

また、患者・感染者が安心して医療を受けられる環境づくりを進めることが重要であり、エイズ診療に取り組む医療関係者へ支援を訴える必要があること。

(3) H I V 治療の進歩と検査・早期治療の重要性

H I V 治療の進歩に伴い、H I V に感染しても早期発見及び早期治療によって長期間、社会の一員として生活を営むことができるようになってきたこと。

検査・相談は無料・匿名で最寄りの保健所等で受けられることや医療機関でも受検ができることなど、検査・相談の利用の機会に関する情報提供に努め、検査を受けやすくするための特段の配慮が必要であること。

8 その他

広報の実施に当たっては、患者・感染者やその家族の社会的背景や人権に配慮すること。

参考資料 2

令和7年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマについて

1 キャンペーンテーマ

U=U 検出されない＝性感染しない

2 趣 旨

本キャンペーンテーマは、主として次に掲げるメッセージを発信するものです。

これまでH I Vとエイズに対して様々な取組がなされてきました。

治療法の進歩によりH I V陽性者の予後が改善された結果、H I V陽性者は感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、H I Vに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。また、近年では、H I V治療を受け、血液中のウイルス量が検査で検出できない程度に最低6ヶ月以上継続的に抑えられているH I V陽性者からは、性行為によってH I Vが感染することがないことも確認されています。このことは、Undetectable（検出限界値未満）＝Untransmittable（H I V感染しない）、略して「U＝U」と呼ばれています。

つまり、治療の進歩でH I V陽性者の生活は大きく変わり、H I V感染の予防にも、その進歩に支えられた様々な選択肢が用意されるようになりました。しかし、現状はそうした変化が正確な情報として十分に伝わっているとは言えず、有効な治療法がなく死に至る病であった時代の認識にとどまっている場合が少なくありません。そのことがH I V感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、差別や偏見を招く要因の一つになっているとも言われています。

そこで、今年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマは、この「U＝U」という言葉をより一層浸透させることで、もう一度H I Vとエイズのことを皆で考えてみましょうというメッセージが込められています。ひとりでも多くの人がH I Vとエイズのことを自分の事として捉え、H I Vとエイズに関する検査や治療、支援などの知識を身につける契機とし、最新の知識の普及を通じて、H I V検査の受検促進や差別・偏見の解消につなげていきたいと考えています。

3 留意点

キャンペーンテーマは上記趣旨を踏まえ、世界エイズデー関連イベントに限らず、啓発資材や講演・研修会の内容への盛り込み、名刺やメール署名への記載等、年間を通じ、啓発活動の場において広くご利用ください。

キャンペーンテーマの趣旨は、エイズ予防情報ネットにも掲示いたしますので、ウェブサイト等で啓発活動を展開する場合のリンク先として適宜ご活用ください。

(<https://api-net.jfap.or.jp/index.html>)

その他啓発および、情報提供一覧

発信元	実施内容(Webサイト)
エイズ予防情報ネット (API-Net)	世界エイズデー特設ページ https://api-net.jfap.or.jp/edification/aids/special2025.html ・キャンペーン情報 ・ポスターコンクール ・地方自治体の取組予定一覧 世界エイズデー前後の期間、全国の自治体で実施されるイベント、検査・相談に関する情報 ※イベント、HIV検査・相談等に関する情報は随時更新予定
レッドリボンライブ 2025 オフィシャルサイト (RRL)	https://redribbonlive.net/ ・レッドリボンライブ 2025 イベント案内 ・著名人から啓発に関するメッセージ、コメント ・その他予防啓発に関する情報
厚生労働省	https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eizu/index.html ・世界エイズデー概要 ・イベント情報



本年度の世界エイズデーキャンペーンポスターは、一般の部から選ばれました。

エイズ広報を行う際の留意事項（不適切な表現等）

患者・感染者を傷つけたり、差別、偏見を助長するような表現は避ける

◇エイズ撲滅、エイズ抑圧、エイズ根絶

→患者・感染者が傷つく表現なので避ける。「HIV 感染症／エイズのまん延の防止」、「患者感染者に対する差別と偏見の解消」などの表現が望ましい。

◇エイズをたたきのめす、やっつける

→患者・感染者を排除しようとするイメージを与える表現なので避ける。

◇エイズ汚染、エイズ禍、ウイルスをまき散らす

→患者・感染者が社会を汚しているというイメージを与える表現なので避ける。

◇理性ある行動をとるべき、節度ある行動をとるべき

→患者・感染者はだらしない人というイメージを与える表現なので避ける。

◇ハイリスクの人、エイズ多発国、エイズ先進国

→危険なのは、「人」ではなくハイリスクな「行動」。また HIV 感染の流行について「多発国」「先進国」という表現は不適切なので避ける。

◇「感染すると／発病すれば」必ず 100%死ぬ

→近年、治療の進歩により、HIV 感染症が早期に診断されれば、服薬を続けることで、エイズ発症を抑えることが可能である。またエイズを発症したとしても、適切な治療を受けることで「必ず（100%）死ぬ」とは限らず、適切な表現ではないため避ける。

◇エイズの恐怖・魔の手、忍び寄るエイズ

→いたずらに恐怖心をあおる表現は避ける。

◇ホモ（ホモセクシュアル）

→蔑称として使われることが多い。「MSM*」「男性同性愛者」「ゲイ」などの表現が望ましい。

*MSM (Men who have sex with men) : 男性で同性間性的接触を行う者（バイセクシュアルも含まれる）

◇レズ

→ホモとセットで蔑称として使われている。「レズビアン」又は「女性同性愛者」等の表現が望ましい。

◇多数との無防備なセックス

→相手が多数でなければ大丈夫という誤解を与えるため避ける。

◇コンドームを使うのは男の役割

→女性用コンドームの使用もありうること、また同性間での性的接触もあること等から適切な表現ではないため避ける。